

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成20年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックに対する本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成21年1月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 20 年 10 月～12 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
石巻市、名取市、多賀城市・七ヶ浜町、登米市、栗原市
気仙沼市、大河原町、大郷町、加美町、美里町
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 8 企業

2. 調査対象期間

平成 20 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 20 年 11 月 17 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 5
建 設 業	2 5
小 売 業	4 6
サービス業	4 2
合 計	1 4 8

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転・長期化)企業割合と減少(低下・悪化・短期化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成20年10月～12月)の景況調査結果から、売上額は、製造業、建設業が上昇、小売業、サービス業は大幅に下降した。

採算は、製造業、サービス業が悪化、他は改善。来期見通しは、製造業、建設業が特に厳しい予測となった。今期も「需要の停滞」を主とする不況型回答が全業種に亘り増加、依然厳しい経営環境がうかがえる。

資金繰りは、小売業、サービス業が下降、他は前期並みの推移、資金借入難度及び借入金利については全体として大きな変化は見られない。

設備実施状況は、全業種が実施、その実施割合は、全業種とも前期実績を下回った。来期の設備計画についても、全業種が有し、その割合は、概ね今期並みの比率である。

総じて、別表1～4表に見るとおり、製造業、サービス業の採算面の大幅下降を始めとして、主要項目のマイナス値は依然大きく、今期も厳しい景況認識が示された。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

表-1の通り、製造業、建設業が上昇、小売業、サービス業が大幅下降。建設業は、2期連続の上昇となった。下降業種のうち、サービス業が20.0ポイント、小売業15.7ポイントと下降幅が大きい。特に小売業の「減少・悪化」回答が全体の73.4%(前期62.2%)、サービス業が74.4%(57.1%)と大幅に増加した。

② 採算の状況

製造業、サービス業が悪化。その下降幅は、製造業が17.1ポイント、サービス業が11.1ポイントと共に大きい。

一方、上昇業種中、建設業は12.0ポイント上昇して2期連続の改善となった。

③ 設備投資の状況

前期に引き続き全業種が、新規設備投資を実施した。製造業が全体の11.4%(前期14.3%)、建設業が12.0%(前期16.0%)とそれぞれ前期を下回った。来期の設備計画も、全業種に設備計画あり、その実施企業割合は、今期並みである。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

全国、東北および宮城の調査結果から、表一1のとおり、売上額D Iは、サービス業が、全地域とも悪化、特に、宮城は20.0ポイント、東北が12.1ポイントと大きく下降、「客単価」、「利用客数」とも低下、「需要の停滞」等、不況要因回答が主力。

なお、全国は、全業種が下降、特に、製造業が前期比11.1ポイント悪化した。

小売業は全国、東北、宮城ともマイナス超幅が大きく、業種的にも、経営環境の厳しさがうかがえる。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製造業	△29.0	△40.1	△ 37.7	△ 33.9	△ 29.4	△ 22.8
建設業	△ 37.7	△ 43.7	△ 39.6	△ 37.0	△ 40.0	△ 30.4
小売業	△ 44.2	△ 49.5	△ 51.6	△ 51.0	△ 44.4	△ 60.1
サービス業	△ 37.4	△ 47.0	△ 43.3	△ 55.4	△ 42.8	△ 62.8

② 採 算

表一2のとおり、全国は、全業種が下降、6期連続しての下降である。

製造業、サービス業は全地域で下降、他業種についても、マイナス値が大きく、依然採算面の厳しさがうかがわれる。

表一2 採算の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製造業	△ 45.1	△ 49.2	△ 42.4	△ 53.2	△ 37.1	△ 54.2
建設業	△ 58.3	△ 58.4	△ 66.5	△ 55.8	△ 68.0	△ 56.0
小売業	△ 53.6	△ 53.7	△ 59.0	△ 57.6	△ 60.1	△ 53.4
サービス業	△ 49.9	△ 53.8	△ 55.8	△ 62.5	△ 60.9	△ 72.0

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額の来期見通しは、製造業、建設業が大幅悪化予想、他2業種は、今期並みの予測である。採算は、小売業を除く3業種が若干ながら好転見通しとなった。

来期の売上額予測について、今期に比較して製造業18.4ポイント、建設業が32.0ポイントの下降予測であり、需要の停滞が更に続くものと厳しい予測となった。

なお、来期の売上額が「低下・悪化」予想回答は、製造業が全体の47.1%（前期30.3%）、サービス業が65.1%（50.0%）と回答比率及び増加幅が特に大きい。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額は、表-3の通り、全国は、4業種すべてが下降予測である。

製造業、建設業は全国、宮城とも下降予測であるが、宮城の下降幅は大きい。

なお、唯一、宮城のサービス業のみ、若干の好転予測となった。

一方、採算面は表-4の通り、全国、宮城とも大きな変化なく、各業種とも概ね横這い推移と予測しているが売上額、採算ともマイナス値は依然大きい。

表-3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 40.1	△ 44.5	△ 22.8	△ 41.2
建 設 業	△ 43.7	△ 53.5	△ 30.4	△ 62.4
小 売 業	△ 49.5	△ 54.9	△ 60.1	△ 60.5
サービス業	△ 47.0	△ 50.2	△ 62.8	△ 60.4

表-4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 49.2	△ 49.7	△ 54.2	△ 53.0
建 設 業	△ 58.4	△ 56.0	△ 56.0	△ 50.1
小 売 業	△ 53.7	△ 53.7	△ 53.4	△ 57.1
サービス業	△ 53.8	△ 50.7	△ 72.0	△ 69.8

2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額は、前期比 6.6 ポイント上昇し、採算は 17.1 ポイントと大幅に下降した。

採算が「悪化」したとの回答が全体の 62.8% (前期 51.4%) を占め、収益環境の厳しさがうかがえる。

一方、来期の見通しは、売上額は大幅悪化、採算は、ほぼ今期並みの予測となった。

特に、経営上の問題点として「需要の停滞」が、従来の「原材料仕入単価の上昇」を上回り、首位を占め、不況色反映がうかがえる。

新規設備実施状況は、今期は全体の 11.4% (前期 14.3%) であり、来期の設備を計画している企業は、全体の 14.3% を占めた。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は、全体の 22.9% で前期比 2.3 ポイント増加した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比 4.3 ポイント減少の 45.7% となり、売上額DI Δ 22.8 は前期比 6.6 ポイント上昇した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

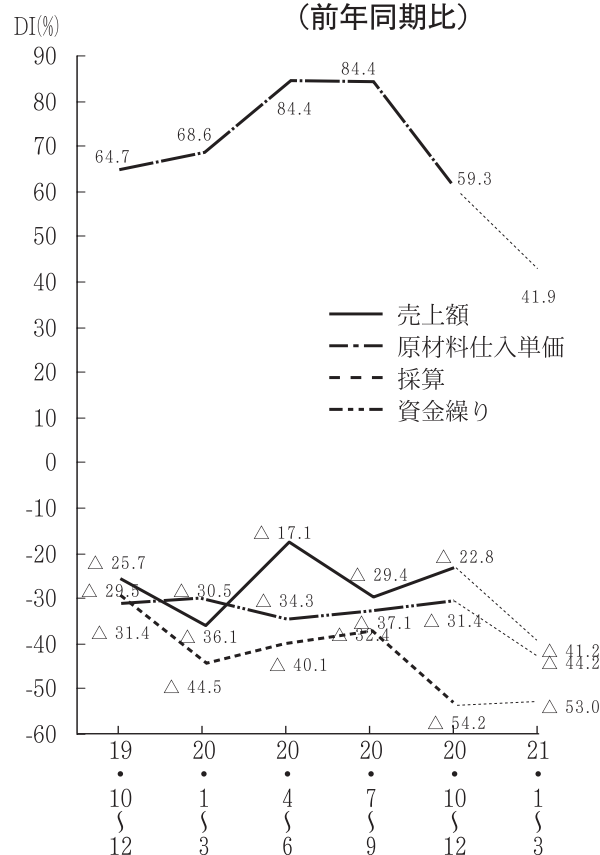
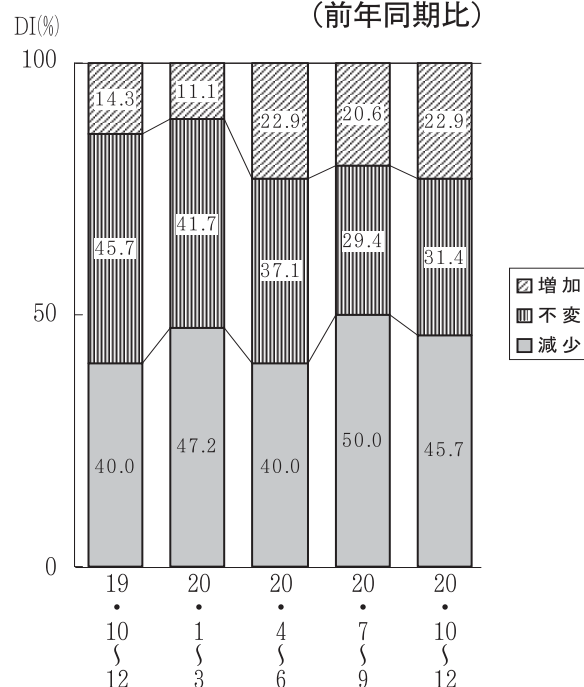


図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)



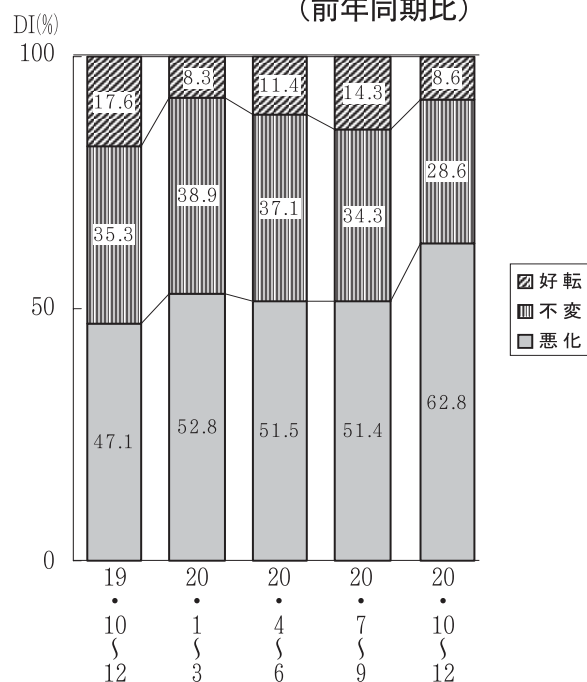
(b) 採 算

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の8.6%(前期14.3%)に減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は62.8%(前期51.4%)である。

その結果、採算DIは△54.2(前期△37.1)と大幅に悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



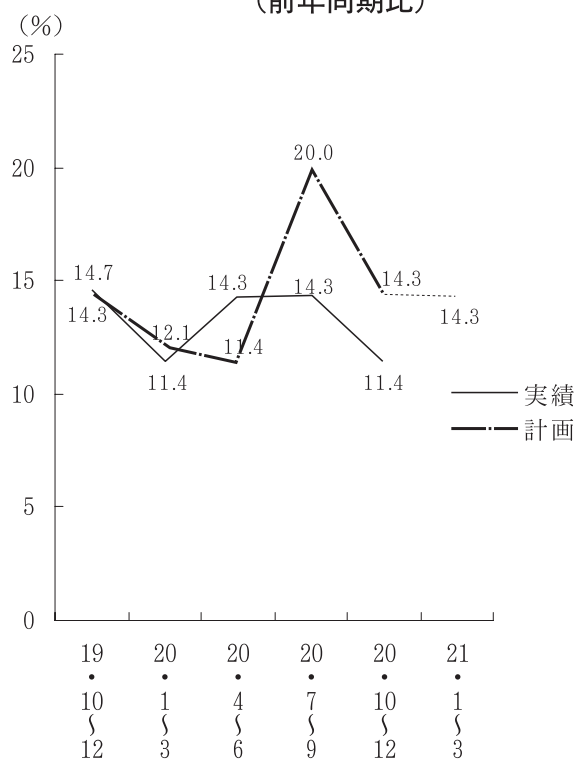
(c) 設 備 投 資

今期の新規設備実施企業割合は、全体の11.4%で、前期に比較して若干低下した。

その設備内容は、工場設備、生産設備、車両運搬具、OA機器等であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の14.3%で、その設備内容は、今期同様のものとなっている。

図1-4 設備投資の状況
(前年同期比)



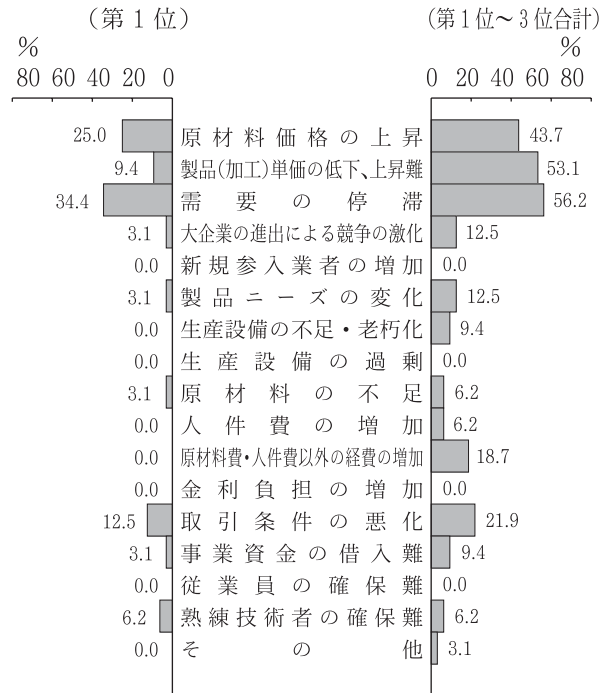
(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」が全体の34.4%、次いで「原材料価格の上昇」が25.0%である。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が56.2%、(複数回答以下同じ)「製品単価の低下・上昇難」53.1%、「原材料価格の上昇」が43.7%と続いている。

今期は、「需要の停滞」が前期首位の「原材料価格の上昇」を上回る結果となった。

図1-5 経営上の問題点



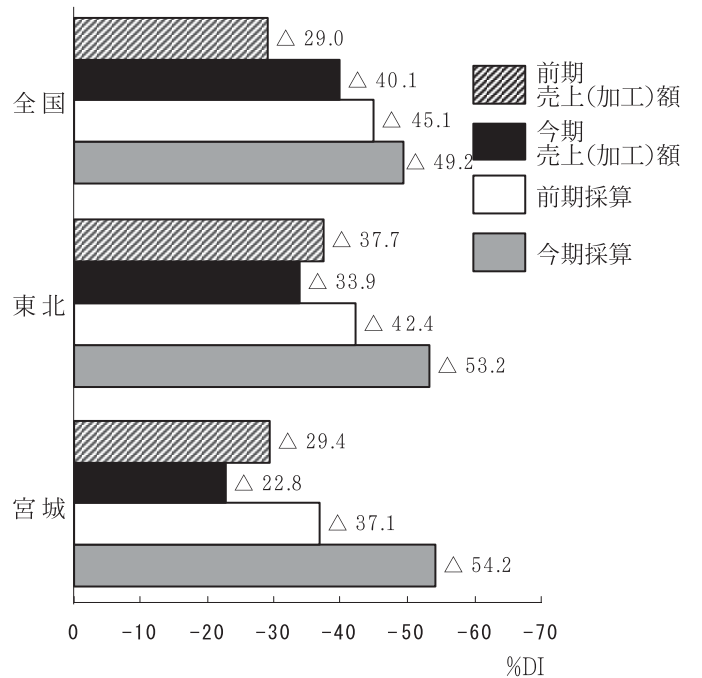
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国が悪化。東北、宮城とも好転した。全国の下降幅が11.1ポイントと大きい。

一方、採算は、全国、東北、宮城とも悪化、特に、宮城、東北の下降幅は、いずれも10ポイント超と大きい。

なお、業況(自社)DIは、全国が△46.6(前期△39.0)、宮城は△42.9(前期△42.9)であり、自社の業況についても売上額同様、全国が厳しい認識を示している。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

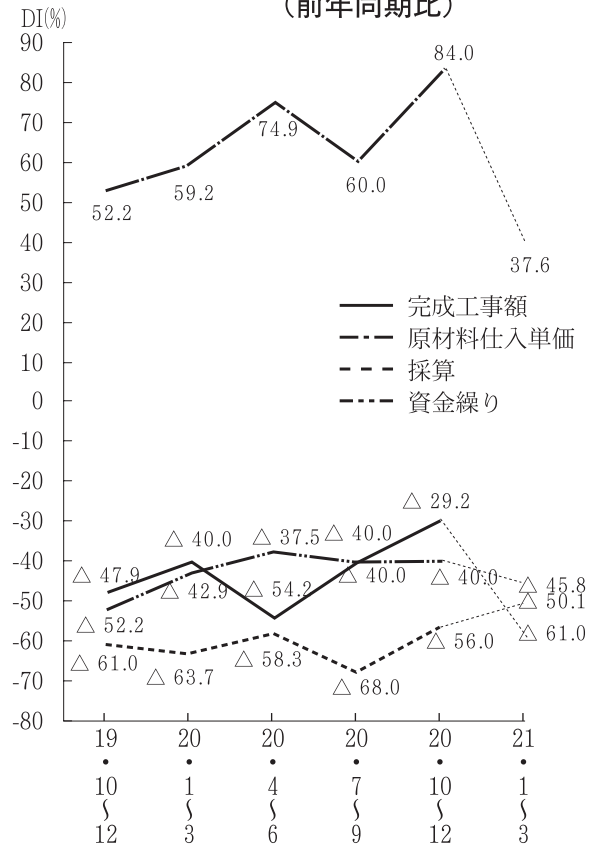
完成工事額は、9.6ポイント上昇、採算は12.0ポイントと大きく下降した。

経営上の問題点として、「民間需要の低下」「請負単価の低下・上昇難」[材料価格の上昇]が依然高率を占めている。

来期見通しについては、完成工事高は、悪化予想。採算は若干の改善予想となっている。

なお、業況DI Δ 48.0(前期 Δ 44.0)と悪化、資金繰りは、前期並みの推移であった。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



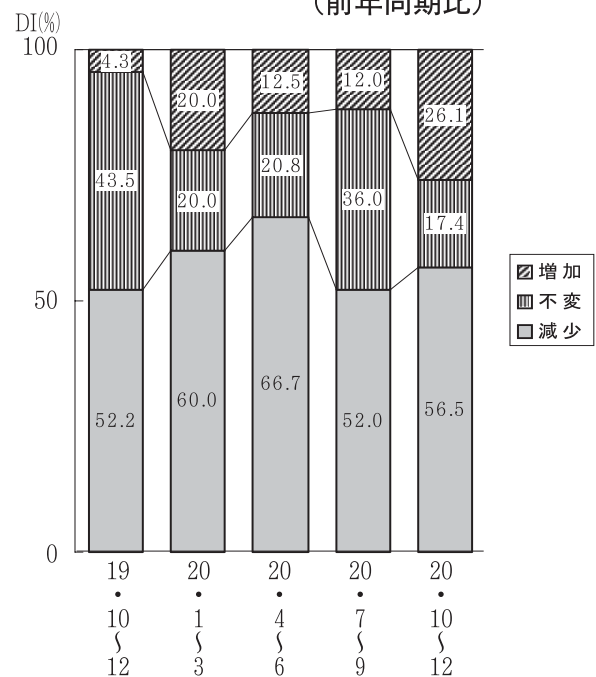
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事額

前年同期比で「増加・上昇」の回答は全体の26.1%で(前期12.0%)であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比4.5ポイント減少して、全体の56.5%であり、その結果、完成工事高DIは Δ 30.4で前期比9.6ポイント改善した。2期連続の改善となった。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)



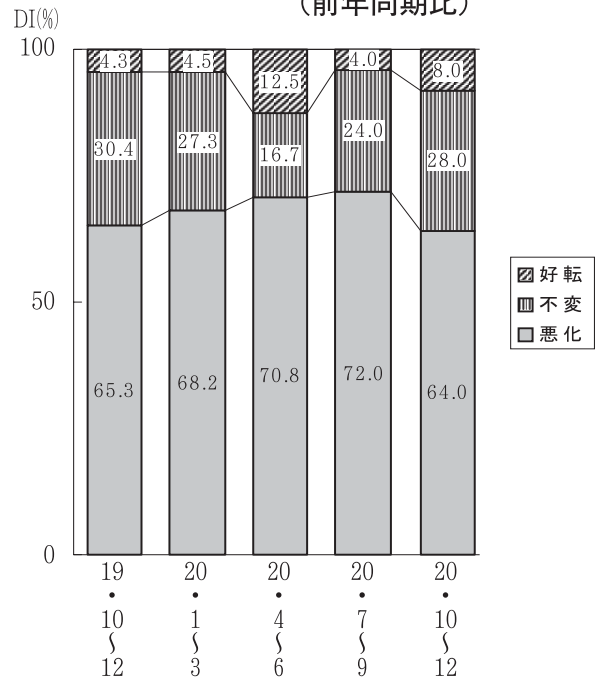
(b) 採算

前年同期比「好転・上昇」の回答は、全体の8.0%で前期比4.0ポイント増加した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比8.0ポイント減少の64.0%で、採算DIは、前期比12.0ポイント上昇して△56.0となった。

来期の採算見通しは、今期から若干の改善見通しとなった。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



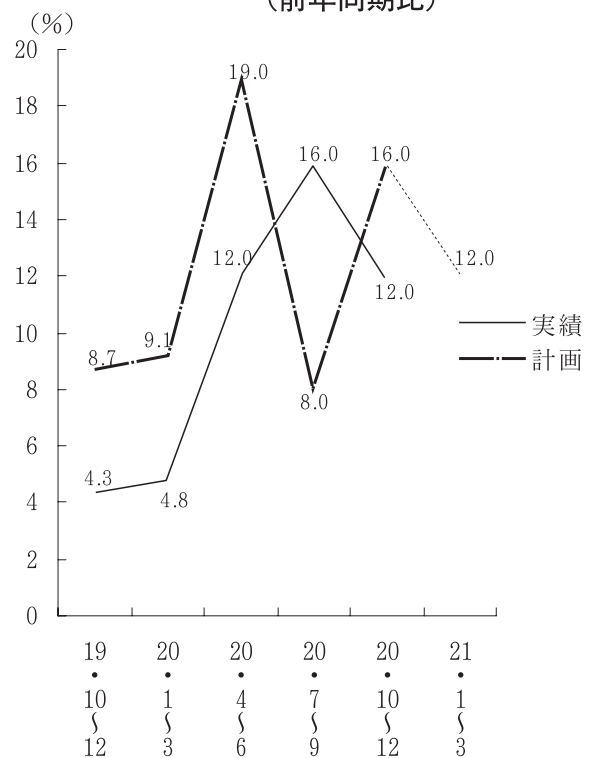
(c) 設備投資

今期、新規設備を実施した企業は、全体の12.0%である。

その設備内容は、機械設備、車両運搬具、OA機器、その他である。

来期に設備計画している企業は、今期同率であり、建物、機械設備、車両運搬具等を計画している。

図2-4 設備投資の状況
(前年同期比)



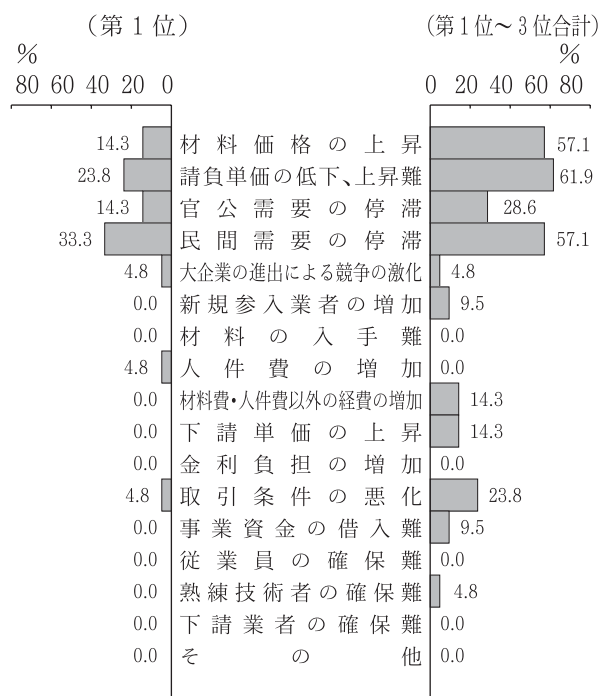
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」33.3%、「請負単価の低下・上昇難」23.8%の結果となった。

重要度第1位から第3位合計では「請負単価の低下・上昇難」が61.9%（複数回答以下同じ）「材料価格の上昇」「民間需要の停滞」が57.1%、「取引条件の悪化」が23.8%と続いた。

経営上の問題として、今期は、特に「請負単価の低下・上昇難」が増加、重要度第1位では、前期8.0%から今期23.8%に大幅に増加した。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

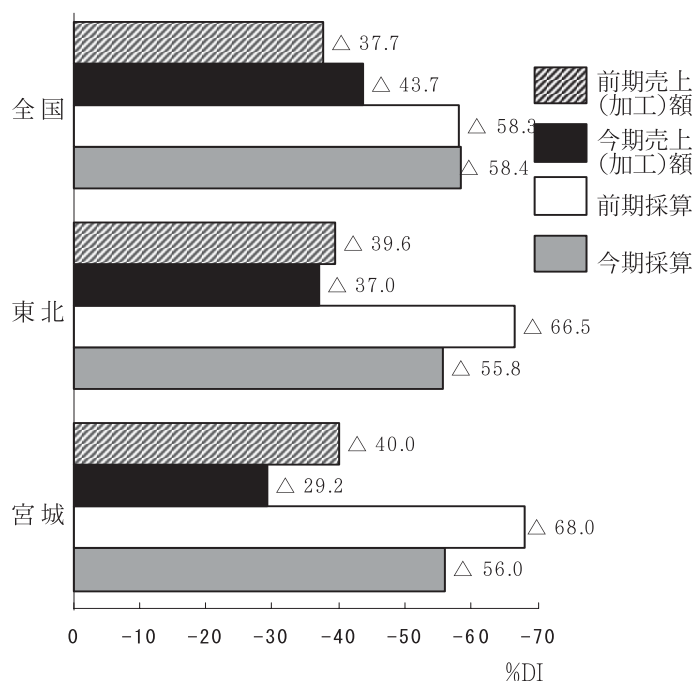
売上額(完成工事額)は、全国、東北が下降、宮城は上昇した。

採算は、東北、宮城が改善、全国は横這い推移であった。

来期見通しについては、売上額(完成工事高)は、全国、宮城ともに悪化予想、特に、宮城は、厳しい予測となった。

採算は、全国、宮城とも若干の好転予測となった。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



(3) 小売業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

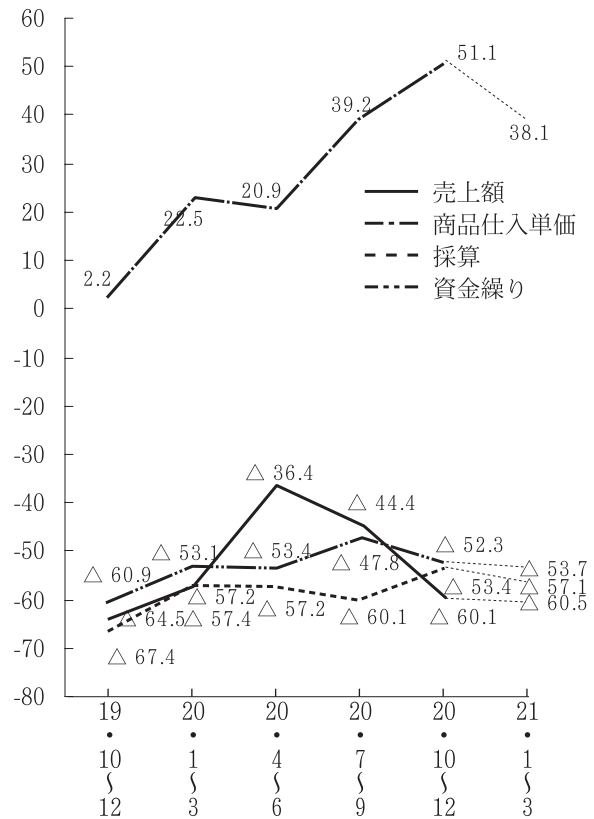
売上額は、前期比 15.7 ポイントの大幅下降、採算は 6.7 ポイント上昇した。

「客単価」は好転、反面「客数」は悪化した。自社の業況認識については、「好転」の回答が全体の 10.0% (前期 9.5%) となった。

資金繰りは悪化、借入難度は、短期資金借入(含・手形割引)の難度が増している。

来期の見通しは、採算は悪化、売上額、資金繰りは横這い推移との予測となった。

図 3 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

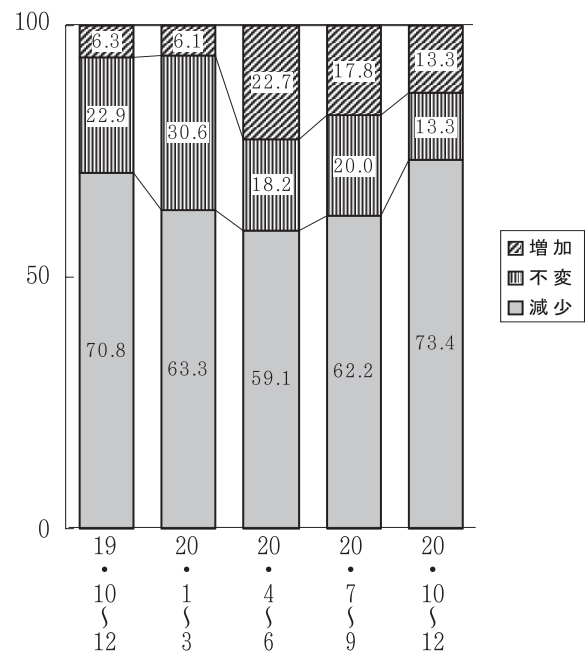
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 13.3% (前期 17.8%) と減少した。

一方、「減少・悪化」の回答は全体の 73.4% (前期 62.2%) に増加した。

その結果、売上額D I は前期比 15.7 ポイントの大幅下降となった。

図 3 - 2 売上額の状況
(前年同期比)



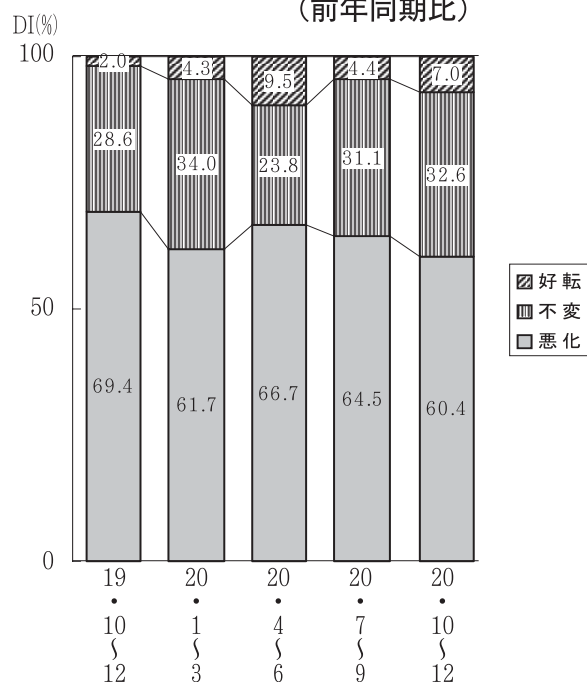
(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は、全体の7.0%で前期比2.6ポイント増加。

一方、「悪化・低下」と回答も全体の60.4%で前期比4.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△53.4となり、前期比6.7ポイント好転した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

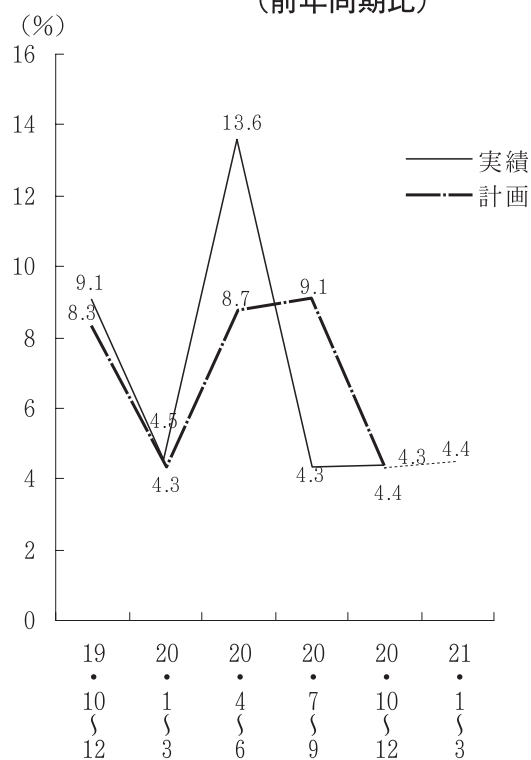


(c) 設 備 投 資

今期の設備実施企業割合は、全体の4.4%（前期4.3%）と横這い。その内容は、車両運搬具である。

来期に設備計画している企業は、今期同率の4.4%で、その内容は、店舗、販売設備、車両運搬具等を計画している。

図3-4 設備投資の状況
(前年同期比)

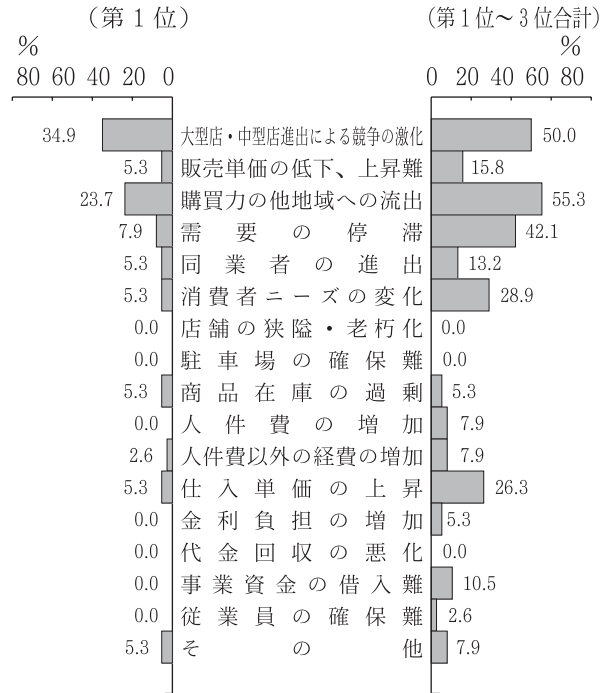


(d) 経営上の問題点

重要度第1位では、前期同様「大型店・中型店の進出による競争の激化」が34.2%、次いで、「購買力の他地域への流出」が23.7%、「需要の停滞」7.9%と続いている。

重要度第1位から第3位合計は「購買力の他地域への流出」が55.3%(複数回答以下同じ)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が50.0%、「需要の停滞」が42.1%の結果となった。小売業については、競合要因が依然主流を占めている。

図3-5 経営上の問題点



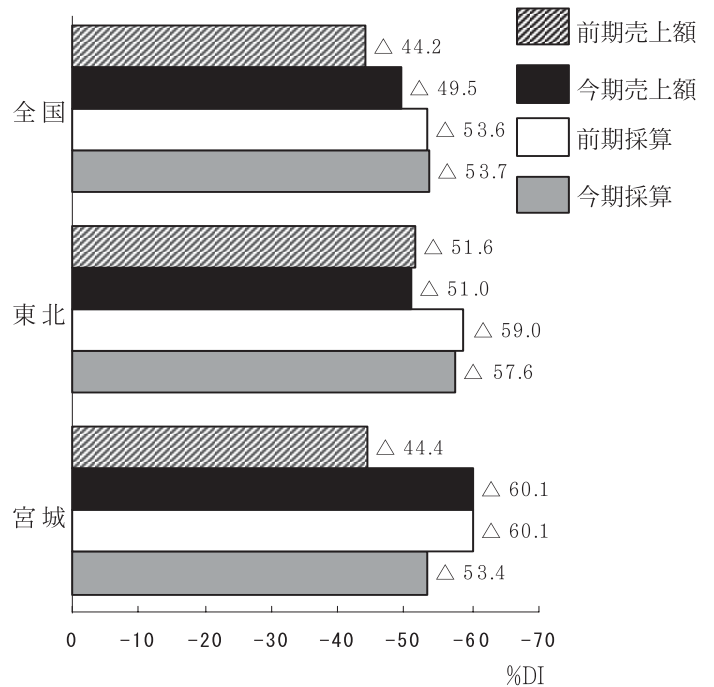
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、宮城が下降、東北は横這い状態であった。

採算は、東北、宮城が改善、全国は、前期並みの推移であった。

一方、業況(自社)DIは、全国が△54.6(前期△52.0)、宮城は△50.6(前期△54.8)で、いずれもマイナス値は大きく、厳しい業況認識が示された。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



(4) サービス業の動向

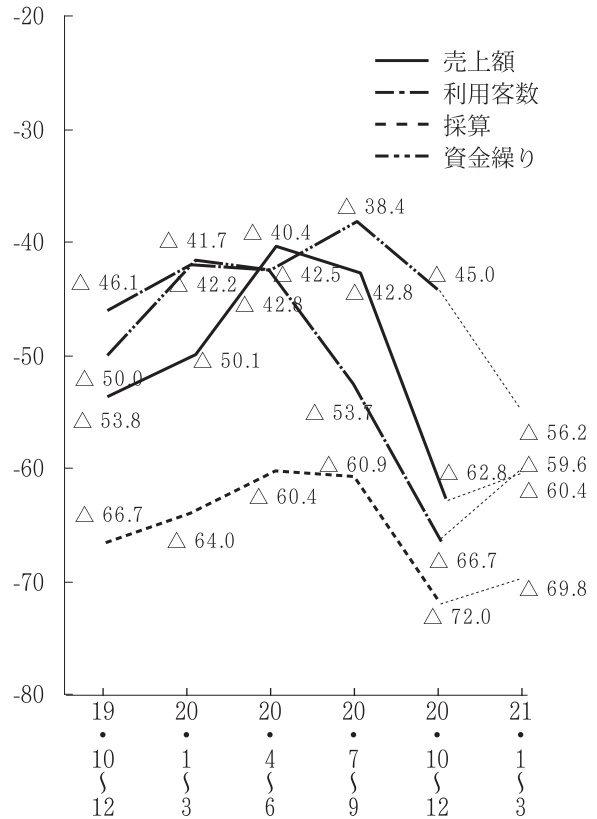
① 主要景況項目から見たあらまし

売上額は、前期比 20.0 ポイントと大幅下降を始めとして、採算、資金繰り等の主要項目 D I 全てが下降した。客単価、利用客数も下降した。

業況（自社）D I $\Delta 62.0$ （前期 $\Delta 57.8$ ）で厳しい認識が示された。

来期見通しについては、売上額、採算共に若干ながら好転予測となったが資金繰りについては、依然厳しい予測となっている。

図 4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

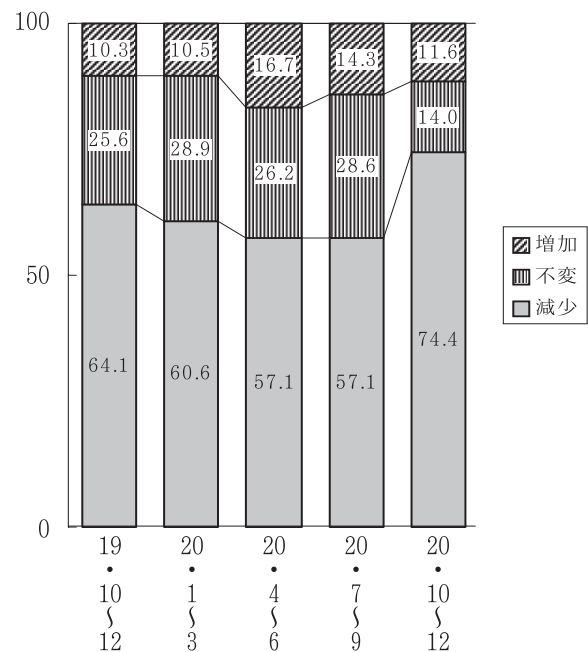
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」の回答は、2.7 ポイント減少の 11.6%である。

一方、「減少・悪化」の回答は、全体の 74.4%となり、前期比 17.3 ポイントの増加であった。

その結果、売上額 D I は、 $\Delta 62.8$ となり、前期比 20.0 ポイントと大幅な下降を示した。

図 4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)



(b) 採 算

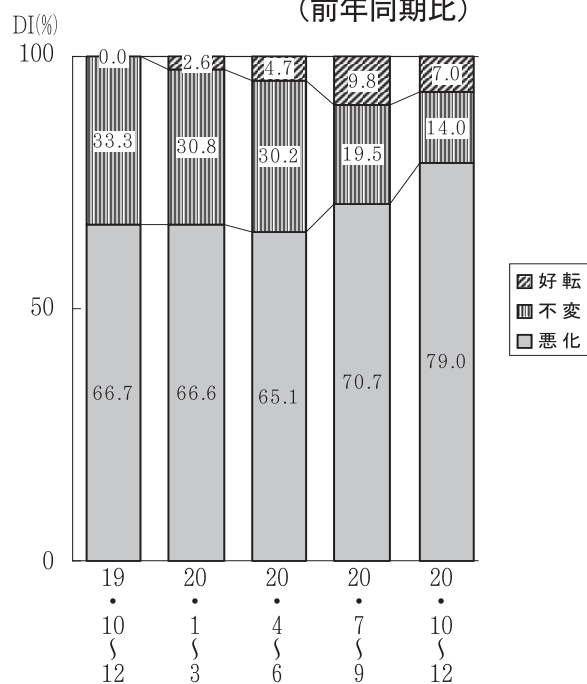
「上昇・好転」と回答した企業は、全体の7.0%（前期9.8%）であった。

一方、「低下・悪化」の回答企業は、全体の79.0%であり、売上額同様、かなりの高率となった。

その結果、採算DIは△72.0となり、前期から11.1ポイント下降した。

売上額、採算とも厳しい結果となった。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)

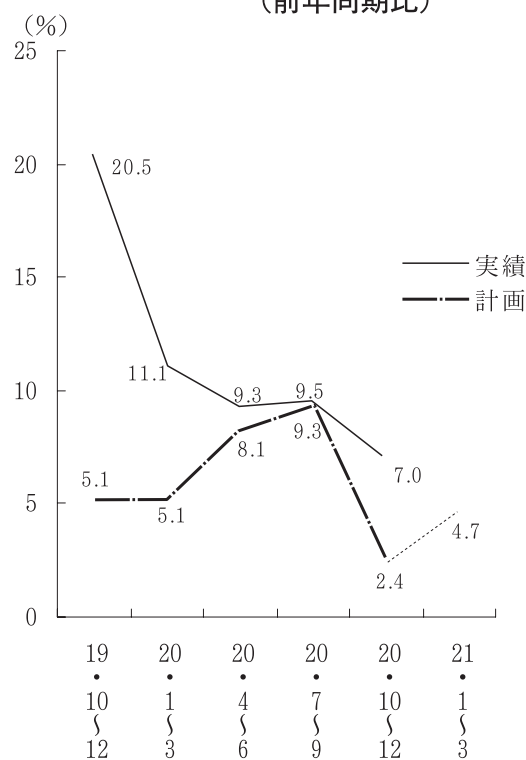


(c) 設 備 投 資

今期、設備を実施した企業は、全体の7.0%（前期9.5%）であった。その設備内容は、土地、車両運搬具等である。

来期に設備計画している企業は、全体の4.7%であり、その内容は、車両・運搬具、付帯施設等を計画している。

図4-4 設備投資の状況
(前年同期比)



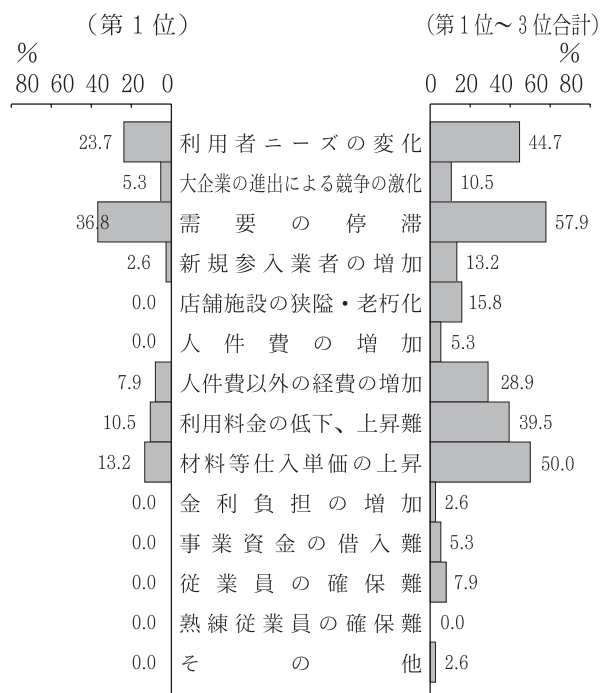
(d) 経営上の問題点

重要度第1位では、「需要の停滞」が36.8%、「利用者ニーズの変化」23.7%、「材料等仕入単価上昇」が13.2%と続いている。

重要度第1位から第3位合計では「需要の停滞」が57.9%、(複数回答以下同じ)、「材料等仕入れ単価の上昇」が50.0%、「利用者ニーズの変化」が44.7%の順となっている。

需要の停滞が、再度首位を占める結果となった。

図4-5 経営上の問題点



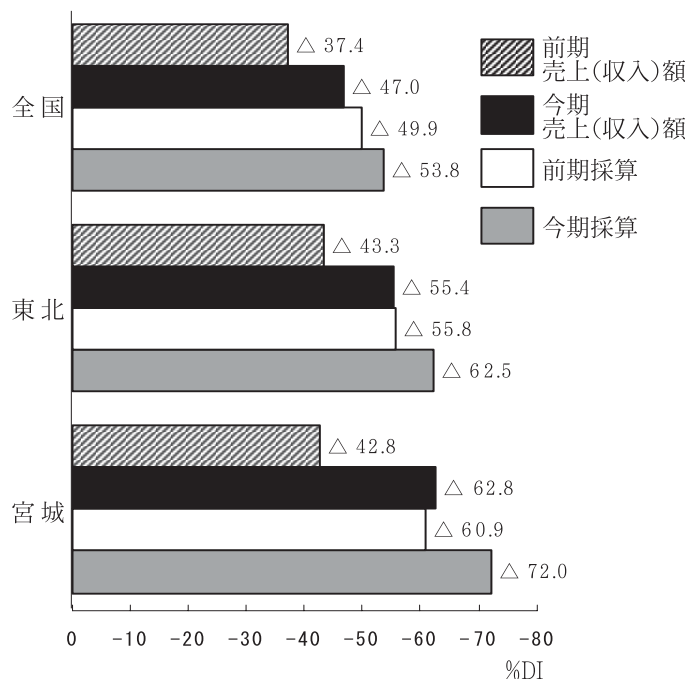
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北、宮城とも下降、採算も、同様に全地域が下降した。

全地域で売上、採算とも同時下降は、3期連続であり、その経営環境の厳しさがうかがわれる。

自社の業況DIについては、全国が△49.7に対して、宮城は△62.0、であり、依然、地域間格差は大きい。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています